

西日本旅客鉄道株式会社
理事 中国統括本部 岡山支社長
林 秀樹 様

在来線（山陽本線・赤穂線）の利便性向上
に関する要望書

令和7年11月
東備西播定住自立圏域 JR 利用促進協議会

西日本旅客鉄道株式会社におかれましては、日頃より乗客の安全輸送並びにサービス向上を最優先に、公共交通の維持・発展にご尽力いただいております、敬意と感謝申し上げます。

さて、山陽本線は、備前播磨地域のみならず日本の鉄道交通・物流を支える大動脈であり、また赤穂線は、兵庫県西部から岡山県に至る極めて重要な交通機関として、沿線住民をはじめ地域住民の通勤、通学、通院など日常的な移動を支えているだけでなく、当該地域から京阪神地域にかけての交流をはじめ、経済活動、観光、経済文化圏の創出などに大きな役割を果たしています。

このようなことから、備前市、赤穂市及び上郡町の諸団体を構成員とする本協議会では、山陽本線及び赤穂線の輸送力強化と利便性向上の促進はもちろんのこと、沿線内外の利用促進を図り、圏域の活性化を目的として活動しております。

そうした中、令和3年10月、令和4年3月、令和5年3月及び令和5年5月に実施されましたダイヤ改正については、次に掲げる利便性向上の取組みが不可欠であると考えますので、格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

(要望項目)

1 山陽本線並びに赤穂線の利便性確保

- (1) 朝夕の通勤・通学時間帯（6時台～8時台、17時台～19時台）における上郡駅～姫路駅間、播州赤穂駅～姫路駅間、播州赤穂駅～岡山駅間のダイヤを確保されたいこと。
- (2) 昼間時間帯（10時台～15時台）における上郡駅～姫路駅、播州赤穂駅～姫路駅間の減便、播州赤穂駅～岡山駅間の運転区間の短縮（西大寺駅、長船駅発着）及び播州赤穂駅着の新快速の減便は、速やかに従前のダイヤを復活されたいこと。また、赤穂線については、従前のダイヤに戻すことができれば、播州赤穂駅発着の新快速として運行されたいこと。
- (3) 早朝の備前片上駅発～岡山駅行、深夜の岡山駅発～備前片上駅行について、発着駅を播州赤穂方面へ延伸されたいこと。
- (4) 圏域内の観光振興を推進するため、観光列車「ラ・マル・ド・ボア」の播州赤穂駅への延伸や圏域周辺を含むデジタル周遊パス等の創設を検討されたいこと。

2 地域の生活基盤の更なる向上

- (1) 引き続き駅員の人員確保等に取り組まされたいこと。
券売機での切符購入時にインターホン対応の待ち時間

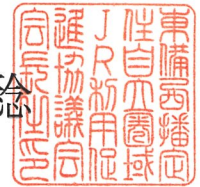
が長く、行列が発生している状況が見受けられる。券売機の操作に不慣れな高齢者の利用も多く、円滑な購入が困難となっていることから、オペレーターの増員や券売機の増設等、利用者の利便性の向上を図られたいこと。あわせて、視覚障害者、聴覚障害者をはじめ、すべての利用者に分かりやすい施設管理を推進されたいこと。

- (2) 圏域自治体では、駅に駐車場の整備を進め、パークアンドライドによる利用促進等、利便性向上につながる駅周辺環境整備を図っている。地域の生活基盤を守るため、さらに関係自治体や他の交通事業者等と連携協力し、地域のまちづくりと連動した地域交通の維持や利便性の向上に取り組まれたいこと。
- (3) 貴社が進める駅設備適正化の取組みについて、利用の少ない駅における駅舎・ホーム上屋の撤去・縮小等による維持管理の省力化は、安全な輸送サービスを持続的に提供していただくために必要な措置と理解しているが、駅機能が縮小される場合、沿線自治体として代替施設の検討、施設整備に必要な予算確保、地元住民への説明など十分な準備期間が不可欠であるため、適正化の対象となる駅および内容については、速やかに情報を提供されたいこと。

令和7年11月

東備西播定住自立圏域 JR 利用促進協議会

会 長 赤穂市長 牟 禮 正 稔



東備西播定住自立圏域 JR 利用促進協議会名簿

1. 会員

会 長	赤 穂 市 長	牟 禮 正 稔
副会長	備 前 市 長	長 崎 信 行
副会長	上 郡 町 長	梅 田 修 作
委 員	赤穂市議会議長	西 川 浩 司
委 員	備前市議会議長	西 上 徳 一
委 員	上郡町議会議長	河 井 正 人
委 員	赤穂商工会議所会頭	目 木 敏 彦
委 員	備前商工会議所会頭	寺 尾 俊 郎
委 員	上郡町商工会会長	大 崎 基 弘

2. オブザーバー

関西福祉大学学長	加 藤 明
はくほう会医療専門学校赤穂校校長	藤 村 忠 史
赤穂高等学校校長	菊 川 泰
備前緑陽高等学校校長	古 城 秀 樹
上郡高等学校校長	武 田 由 哉
相生産業高等学校校長	西 田 拓 巳

